



大分大学 (大分県)



歴史豊かな大分の地で、日本研究の進歩に貢献しよう！

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

教育学部、経済学部、医学部、理工学部、福祉健康科学部、5大学院（教育学、経済学、医学系、工学、福祉社会科学研究科）からなり、2017年度現在、学部4985人、大学院生660人が学ぶ国立大学法人です。

その緑に囲まれたキャンパスでは、「創造性や人間性に富む人材の育成」、「国際社会の平和と発展への貢献」、「人類の福祉と文化の創造」を理念とした教育が実践されており、少人数制の教育の下、教員やスタッフと親密な関係が築け、日本人学生との交流も活発に行うことができます。

② 国際交流の実績

本学は、現在21の国と地域の73大学と学生交流協定を結んでおり、134人の留学生在が学んでいます。

本学の日研究生プログラムは2004年から始まり、毎年日研究生を受け入れてきました。このプログラム以外にも、協定校からの短期留学生を対象とした交換プログラムがあり、アメリカ、ヨーロッパ、オーストラリア、中国、韓国などから、毎学期約60人の交換留学生在が本学で学んでいます

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留學生（日研究生）の受入れ実績

2017年：留学生数134人、日研究生2人

2016年：留学生数129人、日研究生1人

2015年：留学生数121人、日研究生5人

④ 地域の特徴

そして、知っていましたか？ 大分県の人口10万人あたりに占める留學生の数は2017年度現在、日本で2番目なんです。大分県は留學生にとっても好かれている県であるわけなんです。

大分県は九州東部にあり、県庁所在地は大分市。人口約47万人の地方都市ですが、大都市に比べて物価が安く、人々も親切で、留學生には生活しやすいところ。県内には、別府や湯布院など、全国的にも名高い温泉地があり、近年はアジアからの観光客にも人気を博しています。年間平均気温は約17℃と、温暖で過ごしやすく、四季おりおりの海や山的美しさを堪能することができます。

大分の歴史も魅力的です。かつて大友宗麟が大分地方をおさめていた時、今の大分市は日本を代表する国際都市であったのです。そして、更に大分の歴史は11世紀から12世紀にかけて彫られた臼杵の石仏（国宝）、8世紀に建立された宇佐神社へとさかのぼることができます。

■コースの概要

① 研修目的

日本語・日本文化研修留學生（以下「日研究生」）コースは、

- 1) 日本語能力の向上のための研修を主とし、補助的な日本事情・日本文化に関する研修を行うものであり、
- 2) 日本語・日本文化に関する高度な知識の習得を目指し、
- 3) 日本語・日本文化研究の進歩に貢献し、あなたの国と日本との相互理解の促進に貢献する意思のある

外国人留學生のためのコースです。

② コースの特色

本学日研究生コースにおける日研究生の最も重要なタスクは、日本語・日本文化に関わるテーマを一つ選び、指導教員の指導の下、調査・研究の仕方、日本語での論文の書き方を学びながら、1年かけて論文を書き上げることです。指導教員、チューター、日研究生がチームを組んで論文指導は行われますので、安心して論文を書き上げることができます。

また、この論文作成と並行して、中級（レベル4）から最上級までの日本語科目、ならびに、日本事情科目の中から自らのレベル・目的に合った科目を選択し、日本語の更なる習得も行います。日本語上級の日研究生は、本学日本人学生が学ぶ教養・専門課程科目の受講も可能です。また、将来日本研の論文を英語で発表してみようと考えている日研究生は、英語で講義が行われる科目の選択も可能です。最後に、地域の祭りや研修旅行などに参加し見聞を広められることも本学日研究生コースの魅力です。

③ 受入定員

5名（大使館推薦 2名、大学推薦 3名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- 1) 外国（日本以外）の大学で、日本語・日本文化に関する分野を主専攻あるいは副専攻としており、来日時点で日本語を300時間程度学習していること。但し、日本語が母語でないこと。
- 2) 日本語で日常会話ができること。
- 3) 自分の得意な研究分野の日本語論文を辞書を使って読む能力を有していること。
- 4) 400字の長さの日本語エッセイを辞書を使って30分程度で書ける能力を有していること。
- 5) 日本語・日本文化をテーマに調査・研究を自主的に行う意欲があること

⑤ 達成目標

1) 学術的目標

・論文の書き方を習得し、自ら専門の分野の論文を実際に執筆する。

・学術論文の書き方では、具体的には下記を学ぶ

- 序論・本論・結論の論理的繋がり理解
- 理論構築とデータ収集のバランスのとり方
- 参考文献の提示の仕方
- テキスト内引用の方法

2) 日本語運用上の目標

・対人関係・場に配慮した、大人の日本語が理解でき、話せるようになる。

・大学の教養課程レベルで要求される日本語能力（レポート作成および発表）が身につく。具体的には、授業内容がわかり、レポートが書け、授業での発表ができるようになる。

・地域交流に必要な日本語が理解でき、話せるようになる。

⑥ 研修期間

2018年10月1日 ～ 2019年8月31日

修了式は8月を予定（2017年は8月）

⑦ 研修科目の概要

次に説明する必須・選択科目の中から、1週間に7科目以上受講する必要があります。それぞれの科目は、1週間に1コマ(90分)の開講で、日研生はコース修了時まで**少なくとも315時間の日本語・日本文化の研修**を受けることになります。

1) 必須科目

・日本研究Ⅰ、Ⅱ

「日本研究Ⅰ」と「日本研究Ⅱ」があります。どちらも必ず取らなければなりません。指導教員の指導の下、日本語・日本文化に関するテーマを一つ選び、調査・研究を行い、その成果を論文として「日本研究Ⅱ」で提出します。

・日本語・日本事情科目

日本語科目には日本語4から日本語6（表2参照）の4レベルがあり、プレースメントテストで受講するレベルが判定されます。日本語科目は毎学期最低3科目受講しなければなりません。

2) 見学、地域交流等の参加型科目

・「学習ボランティア入門」では大分の地域ボランティア活動に参加できます。「大分の水Ⅰ、Ⅱ」では大野川水系を中心とした大分県内の水辺の環境、地域づくりの実態を体験学習などを通じて学びます。（これらの科目は「教養科目」です。）「ソーシャルネットワークと大分からの発信Ⅱ」では豊後大野市長地域住民との交流を通して環境保護、及び、過疎対策の必要性を学び、解決策を考えます。

「Project Planning, Volunteering and Internship 2, 3」では、国東半島でフィールドワークを行い、国東の歴史文化の紹介を雑誌作りを通して行います。

3) その他の講義、選択科目等

・グローバル科目（表1参照）

国際人養成のための科目で、日本人学生と一緒に学ぶことができます。グローバル科目には日本のマンガ・アニメ・映画に焦点を当てたポピュラーカルチャー科目や日本語文法を体系立てて学ぶ「日本語学Ⅰ」などがあります。

・教養・専門科目（各学部開設科目）

指導教員の助言のもと、各学部の日本人学生のための教養教育科目や専門科目も受講することができます。

表1. グローバル科目（一部抜粋）

科目名	内容	JLPTレベル
大分事情	大分県の特徴	N1
サステナビリティ大分	持続可能な未来とは何かを考える	N1
狂言で大分を学ぶ	伝統芸能を演じることで大分を知る	N1 (日英語で授業)
ソーシャルネットワークと大分からの発信Ⅱ	大分地域の環境保護・過疎の状況を知る	N1 (日英語で授業)

表2. 中級から上級までの日本語・日本事情科目（一部抜粋）

科目名	JLPTレベル
日本語4文法Ⅰ	N2
日本語4文法Ⅱ	N2
日本語4スピーキング	N2
日本語4読解Ⅰ	N2
日本語4読解Ⅱ	N2
日本語4作文Ⅰ	N2
日本語4作文Ⅱ	N2
日本語4応用	N2
日本語5文法Ⅰ	N1
日本語5文法Ⅱ	N1
日本語5スピーキング	N1
日本語5読解・作文Ⅰ	N1
日本語5読解・作文Ⅱ	N1
日本語6読解・作文Ⅱ	N1
日本語特講5：レポート作成	N1
日本語特講11、12：ポピュラーカルチャー	N1
日本研究Ⅰ、Ⅱ	

⑧ 年間行事

- 10月 開講式、オリエンテーション、プレイベント
新留学生歓迎会
チューターとの研修旅行
CIERセミナー
- 11月 大学祭・地域開放イベント
日本語スピーチコンテスト・留学生フォーラム
日本文化体験—伝統の糀と和食を学ぶ—
- 12月 国際文化祭
ホストファミリーとの交流会
- 1月 ホームステイ
- 2月～3月 春休み
- 4月 チューターとの研修旅行
健康診断
- 5月 消防訓練
- 6月 狂言ワークショップ
- 7月 大分大学七夕祭
ななせほむら祭り
留学生送別会
- 8月 大分市七夕祭り
修了式

⑨ 指導体制

プログラムの責任教員は、国際教育研究センターの南里敬三、坂井美恵子です。個別研究指導はセンター教員が行いますが、それに並行して、指導教員から指導を受けたチューター（本学正規生）による学習支援も受けることができます。

個別指導の専門分野は、「日本語教育」、「日本語教授法」、「外国語教育論」、「応用言語学（CALL・動機・第2言語習得研究）」、「大分学（歴史・言語）」、「ジェンダー・スタディーズ」、「中間言語語用論」、「日本文学（主に、近代・現代）」、「大衆文化研究」、「比較文化・文学理論研究」、「イデオロギーと談話構造の研究」、「システミック言語学」などです。

⑩ コースの修了要件

- ・通年で14科目以上を単位取得すること。
- ・上記14科目に「日本研究I」と「日本研究II」が含まれていること。

履修した科目に合格すると単位が認定されます。また、コースの修了者には、修了証書および成績証明書を発行します。

■ 宿 舎

日本人学生と一緒にの学生寮に入居しますので日本語漬けの生活ができます。詳細は表3をご覧ください

表3. 学生寮の部屋代・設備など

部屋代 (月額)	27,000円または22,000円 (全室一人部屋)
設備	机、椅子、ベッド(寝具なし)、クローゼット、ユニットバストイレ、ミニキッチン(冷蔵庫、IHクッキングヒーター)、エアコン
部屋代以外の費用	・維持管理一時金40,000円(入居時) ・光熱水費 約9,000円/月 ・インターネット料2,000円/月(全員加入)

■ 修了生へのフォローアップ

日研生プログラム修了生は、ブログ、フェイスブック、スカイプ等のソーシャルメディア・プラットフォーム、及び、電子メールなどを通じて、修了後の更なる学術的指導、及び、進路相談が受けられます。また、フェイスブックを通して他の修了生との情報交換も行え、大分大学及び大分地域の最新情報も入手できるようになります。

■ 問合せ先

<担当部署>

大分大学研究・社会連携部国際交流課

住所： 〒870-1192

大分県大分市旦野原700番地

TEL： +81-97-554-7444 (直通)

FAX： +81-97-554-7437

Email： ryugaku@oita-u.ac.jp

<ウェブサイト>

大分大学国際教育研究センター：

www.cier.oita-u.ac.jp

大分大学：

www.oita-u.ac.jp

日研生ホーム

www.cier.oita-u.ac.jp/j/academic/kokuhi.html



授業：狂言で大分を学ぶ